今月の読み物

巨樹・巨木シリーズ25
長野県-3

細田木材工業株式会社
顧 問　　細 田 安 治

長野県はその名の通り奥が長く味わいも深い。長野県の大部分を占めている三つの山脈、北アルプス（飛騨山脈）、中央アルプス（木曽山脈）、南アルプス（赤石山脈）をまとめて「日本アルプス」とも「日本の屋根」とも言われている。3000m級の山々が連なり、日本列島の屋台骨ともいうべきであろう。

加えて戸隠神社、諏訪大社、善光寺の名だたる寺社を拝する厳かな神の国を思わせる神聖さをもつ地でもある。

このような日本の屋根を走破し、巨樹・巨木を探索したU氏の行動力に、改めて敬意と感謝の念を表し、信州長野の巨樹・巨木のご紹介に取り組んだ。前号ではオール「ケヤキ」だったが、本号では、豊富な樹種の中から、厳選してお伝えする。さて楽しみながら本論を進める。

写真番号１樹番号24　吉田のイチョウ

樹齢伝承900年、樹周8.61m、樹高26m　長野市吉田3-923　長野市指定天然記念物

古くから吉田大神宮の社地にあり、ご神木とされ「弘法イチョウ」として親しまれている。

古来より乳の出ない母親がこの木の皮を水に浸して飲めば母乳が出るようになるという古い言い伝えがあり、「乳イチョウ」とも呼ばれている。このイチョウは銀杏（ぎんなん）のならない雄の樹だが。

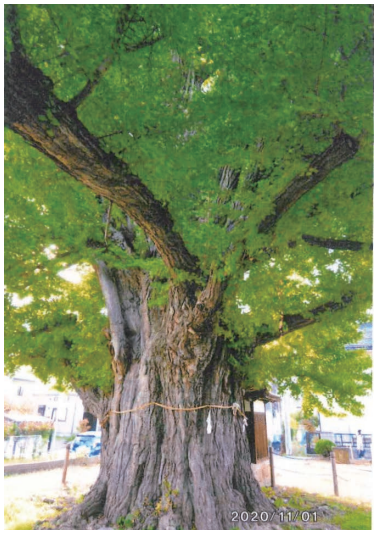

写真１　吉田のイチョウ

＜筆者のつぶやき＞

前号でも述べたが、イチョウは東京都のシンボル「都民の木」である。火災に強く、また、秋には紅葉が美しいので街路樹として都民に親しまれている。

長野県の木はケヤキが中心である。ケヤキは形状が力強く男性的で、女性的な美しさ優しさはない。長野の巨樹を選んでいると緑の「イチョウ」が現れた。この写真のイチョウは、季節も春先であり美しい緑の新芽が出そろい実に美しい。目が休まり、何故かほっとした。

イチョウは秋の黄葉が最高の見どころと言われているが、ドッコイ、春の緑の葉も実に美しい。緑が美しく茂るのは、女性的な美しさだと感動した。いかがでございましょうか。

写真番号２樹番号37　贄川（にえかわ）のトチ

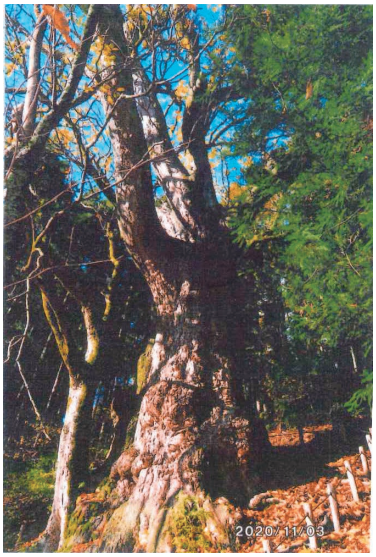

写真２　贄川のトチ

樹齢600年以上、樹周約17m、樹高32m、胸高周囲9.8m　塩尻市贄川萩ノ上1882　長野県指定天然記念物

このトチは、枝下の高さ8.5mで太い枝が分かれ、さらに５本に分岐している。枝張りは約900平方m2と、枝張りがよく、樹姿・樹幹の美しさ、大きさにおいて、このトチは県下第一といわれている。この大木は山側の傾斜地にそびえ立つ。個人所有であり、大事に育てられている立派な巨樹である。

＜筆者のこぼれ話＞

トチは常緑広葉樹として代表的な木であり、都会の公園にも数多く植えられている。秋には実をつけ熟して木の下に落下する。強風が吹けば木の根もとには足の踏み場もないくらいにトチの実が落ちている。この実を拾うことも楽しみの一つだが、拾ってもなかなか食用にすることはできない。

「物知りびと」にトチの実の食べ方を教わった。まず、フライパンでトチの実を煎ると、皮がハジケ、割れ目ができる。この割れ目を使って皮をむき、身を取り出す。皮をむき、実だけになったトチの実を、「あく抜き」して、ふかし、もち米に混ぜて、「トチモチ」となる。「出来上がったら、お持ちしますから」といわれ、数年たったがまだ来ない。しかし、作り方としては納得できる。実験してみたいものだが・・・・・

もう一つは、巨木であれば用材として使い道がある。ツキ板に加工して家具の化粧板として利用された。ツキあがったトチのツキ板は、白太の部分を使う。

ツキ板を「モクサク酸」という薬液に一晩漬け、次の朝取り出してツキ板を一枚ずつ、洗濯ばさみで挟み、「外干し」する。つまり天然乾燥するわけだ。一晩で乾燥したトチのツキ板は、綺麗な薄いグレイに染まる。家具の表板に数多く使われた。ムク材は銘木床柱や、上下の横物の落とし掛けや、上がり框などや、家具としても数多く使われていた。

昭和の東京オリンピック*から日本は高度成長へと進む。やがて、マイカーの時代となりカラフルなカラーのマイカーが街を走り回るようになった。マイカーのカラーの中でシルバーグレイは人気のあるカラーであったと記憶している。楽しいね。贄川のトチから次々と想像が膨らみ、シルバーグレイのマイカーにたどり着いた。余談が多くなり失礼、本論に戻る。

＊昭和の東京オリンピック：昭和39年（1664）10月第18回夏季オリンピックのこと。戦後日本の復興を世界にアピールする絶好の機会となった。

写真番号３樹番号39　小野のシダレグリ

樹齢伝承500年、樹周4.1m、樹高不明　上伊那郡辰野町小野5983-1　国指定天然記念物

シダレグリについては単体の樹よりも群生の美しさについて辰野町のホームページよりご紹介する。

大正９年（1920年）に「小野村枝垂（えだたれ）栗自生地」として、国の天然記念物に指定され、昭和32年（1957年）に「小野のシダレグリ自生地」と名称変更された。また、昭和60年（1985年）には「しだれ栗」として、辰

野町の町木にも指定された。しだれ栗森林公園内には、楡沢の天狗原の西向き斜面約2.24haに、900本以上のシダレグリが群落を作って自生している。

シダレグリは、火山活動の影響によるシバグリの突然変異種といわれている。特徴として、「しだれ」と「頂芽の枯死」の２つの性質をもつ。側枝の成長する方向や頂芽の枯れる枝の年数、枝の上に向かう性質と下へ向かう「しだれ」の性質などの兼ね合いで、様々な樹形が作られており、自然の不思議さを感じさせてくれる。

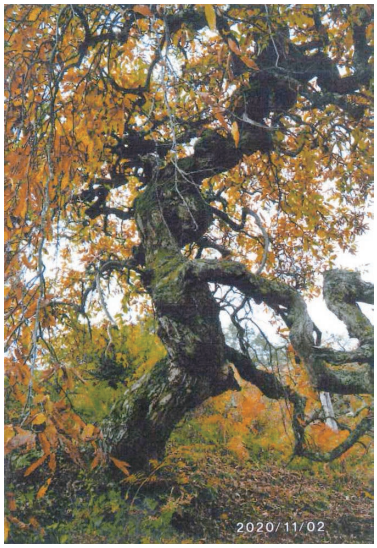

写真３　小野のシダレグリ

地元には、「昔、弘法大師が栗の実をとりやすくするために枝を下げてくれた。」、「栗が天狗の食糧で、天狗が腰掛けたため枝垂れた。」などの言い伝えが残っている。しだれ栗の姿を見ていると、「何か不思議な力が働いたのでは？」と考えた昔の人の気持ちが伝わってくるようである。

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構の遺伝子調査によって、小野のシダレグリが優性の遺伝子であると判明し、自然更新が行われ続け、現在まで群生地として生存していると考えられている。

＜筆者のつぶやき＞

木材を生業とする「木材や」でありながら、このような素晴らしい樹木による「自然の造形」があることを知らずにいた不勉強さを恥じ入る次第だ。このような気付きがあるたび、自分の知っていることなどたかが知れている。物事を謙虚に視ること、聴くこと、そのうえで考えることを怠ってはならぬと自戒している。自然と接することは、楽しみであり学び事である。このような心持ちで、巨樹・巨木に向き合っていきたい。

写真番号４樹番号40　小野神社のカツラ

樹齢不明、樹周10.0m、樹高31m　塩尻市北小野175-1　長野県指定天然記念物

このカツラは小野神社本殿の奥にある。最初に小野神社に関連している御柱祭りをご紹介する。小野神社は諏訪大社一宮の関連神社の二宮（小宮）として御柱祭を催行しているからである。

御柱祭りとは、諏訪大社が７年に一度、干支で言う、寅と申の歳、つまり７年ごとに行われるお祭りで「日本三大奇祭」の一つとされている。特に諏訪大社の御柱祭はテレビ中継もされるので全国的に知名度が高い祭りだ。

写真４　小野神社のカツラ

ちなみに、「日本三大奇祭り」とは、その土地の習わしや風習に基づく独特の祭りで、その祭り方から「奇祭」とされた祭りのこと。1. なまはげ紫灯祭（秋田県男鹿市）、2.御柱祭（長野県諏訪市・諏訪大社）、

3.吉田の火祭（山梨県富士吉田市・北口本宮冨士浅間神社）がある。

諏訪大社の勇壮な木おろしに比べて小野神社の御柱祭りはきらびやかな衣装が特徴である。「人を見たけりゃ諏訪神社、綺羅を見たけりゃ小野御柱」との言い伝えがあるほど知られているのが小野神社だ。

＜筆者のつぶやき＞

小野神社の境内に聳え立つカツラは主幹が二つに分かれながら芯は直立している。御柱のアカマツと並んで直立している樹相を見ていると「俺はカツラだが真っすぐ立っているぞ。御柱祭りの隅っこだが一役かっているぞ」と言いたげに、問いかけてくる「木心」のある巨木ではないか、と勝手にこんな想像を膨らました。

巨樹・巨木は見る人により様々な見方や感じ方をもたせる。巨樹・巨木と対話できるのもこちら次第ということだ。

写真番号５樹番号47　梓川（あずさがわ）のモミ

樹齢600年、樹周6.3m、樹高43m　松本市梓川4419　長野県天然記念物

このモミについては、松本市のホームページよりご紹介する。

このモミの巨木は、梓川地区の大宮熱田神社の境内に鎮座している。地域の守護神として、本神山山頂に「梓水大神」として奉斎されていたが、祭事や参詣者の便のために、清浄な地を選び神殿を造営して遷座し、更に「熱田大神」「天照大神」「八幡大神」が合祀されたのが現在の神社である。本殿は国重要文化財に指定されている。

御神木でもあるこのモミは、樹高43m、幹囲6.3m、樹齢600年で県内一のモミの巨木であるといわれている。地上20メートル辺りまで枝はなく直立した太い幹、それより上部には四方に10数本の太枝を張り出している。周囲には、スギやヒノキなどの高木があるも、このモミの巨木は高くそびえ立ち、遠くから見ることができる。

写真５　梓川のモミ

＜筆者つぶやき＞

「元来梓川の神様として山の上に、祀られていたが、祭事や参詣者の便などから現在地に遷座した。同時に天照大神、熱田大神、八幡大神を合祀した」。とあるが、日本の代表的神様を合祀したとは初耳だ。日本中の神様の最高位の神様を簡単に合祀できるのだろうか？

巨樹・巨木としてこのモミの木は、根元もしっかりしており、樹高43.5m、都会の建物でいえば、マンション12階建てに相当する高さだ。素晴らしいモミノキと評価する。

◆モミの木の用途

モミの材は白いのが特徴なことから、古来より神聖視され、神事や、仏事の道具に広く使われてきた。お札（ふだ）や絵馬、神棚をはじめ、お祝い事の結納台などや、仏事では、お棺、卒塔婆に使用されている。

もっと身近かなところでは、素麺箱、折詰、蒲鉾板など食品用木箱にも数多い需要がある。一部建築用内装材に使われるが、国産材では供給が伴っていない。（グーグル参照）　続く